

# 【複数年度(1年目)】AIやIoT活用による観光交通を分散させる交通社会実験(大分県由布市)

## 1. 実験概要、留意すべき項目

- AIカメラを活用した情報提供によるルート分散、交通手段変更等について検証を行う。
- AIカメラから取得した渋滞情報に基づく情報発信に結びつく実験となっていること。

## 2. 今年度の調査内容、調査結果

- 盆地エリアの混雑状況を把握  
⇒ AIカメラ設置箇所を確定、試験運用を実施
- 渋滞情報、迂回路案内の発信  
⇒ システム構築、関係者協議、計画立案
- パーク&ライドによる交通手段の分散  
⇒ 関係者協議、計画立案



社会実験概要



社会実験入出力情報イメージ図

## 3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
盆地エリアの混雑状況を把握	今年度の結果を踏まえ、本格実施
渋滞情報、迂回路案内の発信	リアルタイム渋滞・迂回路情報の発信
パーク&ライドによる交通手段の分散	パーク&ライドの実施

## 4. 今後のスケジュール

- 令和3年11月～令和4年5月、7月、9月:二次交通を活用したP&R
- 令和4年1月～5月、7月、9月:渋滞情報、迂回案内の発信
- 令和4年1月～3月、5月、7月、9月:広報活動
- 令和4年3月～9月:AIカメラを現地に設置

## 5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
近年の金鱗湖周辺は、店舗が密集し、車両だけでなく歩行者も混雑しているが、本実証実験でそこへの対応はしないのか。歩行者環境と車両交通環境との連携を確認したい。	P&R について、検討段階ではかなり郊外の駐車場をフリンジパーキングとすることも考えた。しかし、あえて「歩いて楽しいゾーン」の中で、混雑エリアから少し外れた箇所を設定し、金鱗湖周辺から車両交通を減らす方向としている。
P&R の郊外駐車場利用者に対して、金鱗湖周辺等への誘導を検討しているか。	宮尻駐車場にはまちづくり観光局の人間を配置する予定であり、利用者にはマップを渡し、おもてなしの一環として金鱗湖周辺への誘導を行う。
P&R 利用者へのサービスや特典等は考えているか。	おもてなしという言葉を使い、丁寧な案内を行ってまちなかへ誘導することで、付加価値をつけたいと考えている。
人の集中に関して、時間帯の分散を図るにあたり、利用者が時間をずらすインセンティブが必要になる。本実証実験では実施できなくても、今後 AI を活用して対応していくことを関係者に投げかけてみてほしい。	オーバーツーリズムへの対応等、まずは定期的に関係者間で話し合っていく場を設けようと動いているところである。本実証実験の結果も踏まえ、その場でも議論を重ねたい。
P&R の使用モビリティは決まっているか。電動キックボードは速度が速すぎるので、活用する意向があれば再考してほしい。	由布市主体の社会実験では、グリスロの活用を模索している。引き続き、由布院に適したモビリティの検討を進める。電動キックボード活用は意見を参考に活用可否を検討する
由布院の交通環境を考えると、まちなかの道路空間構築もあわせて検討したほうがいいと感じた。情報発信のサイトを使って、来訪者に由布院到着前に行動を判断してもらうことも大事だと思う。	本実証実験にとどまらず、今後も由布院の交通環境の検討を続けていく予定のため、道路空間構築も考えていきたい。本実証実験では、由布市 HP、SNS 等を用いて情報発信をしていく

## 6. 評価

- 順調に実験が進んでいる。
- 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。